

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-173	高等学校	芸術	音楽I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
89 友社	音I 311	改訂版 高校生の音楽 1		

1. 編修の趣旨及び留意点

これからの芸術教育に求められるものは、さまざまな芸術体験を通して生徒一人一人の「生きる力」を育てること、芸術の技能・知識の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを図ること、芸術活動を通してしなやかな感性と豊かな心を育てることである。この課題に応えることを趣旨として、本教科書では音楽という教科の特性を十分に生かしつつ、音楽活動の教育的価値を感受・思考・判断の調和的追究に求めて編集に当たった。

2. 編修の基本方針

時代の変化と生徒の実態に即した「楽しい教科書」の提供を意図し、以下の諸点を編集の基本方針とした。

- (1) 高等学校学習指導要領・芸術科「音楽I」の目標・内容に則る。
- (2) 中学校音楽からの継続性と「音楽II」への発展性を重視して内容を構成する。
- (3) 高校生の心情に適した多様な音楽教材を選択し、表現と鑑賞の関連を図るとともに、参考資料を豊富に取り入れて学習効果を高める。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
【全体の構成】 学習指導要領の内容構成にしたがって全体を「表現」と「鑑賞」の2分野に分け、「表現」をさらに「歌唱」「器楽」「創作」の3領域の内容ごとにまとめた。	「豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」を期し、音楽についての幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操としなやかな感性を培うことを目指した(前文/第1号)。	p.6-7 p.8-91 p.92-109 p.110-115 p.121-154
【歌唱】 生活や環境とのかかわりのなかで、生徒が自らを見つめなおす観点として「青春と音楽」「芸術と音楽」「民族と音楽」「人間と音楽」の四つの主題ユニットを設定した。	生徒一人一人の価値観を尊重して、その音楽的な能力を伸ばす中で創造性を培い、生涯にわたって音楽と関わり続けるような自主及び自律の精神を養う(第2号)。	p.8-27 p.30-45 p.46-71 p.72-86
【器楽・創作】 合奏活動の源を「ヴォイス・アンサンブル」「ボディ・パーカッション」に求め、そこから生きた合奏を導き出した。創作では旋律作りとともに、音素材を生かす活動を重視した。	小集団活動においては自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に芸術界・音楽界の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う(第3号)。	p.87-93 p.96-108 p.110-115
【鑑賞】 「オペラ」「独奏曲」のように楽曲の種類別にまとめて音楽への主体的アプローチを促すとともに、西洋音楽史、日本音楽史、音楽史年表などの資料活用を目指した。	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う(第5号)。	p.121-135 p.136-147 p.148-151 p.152-154 p.155-161
【内容の取り扱い】 学習の4観点にちなんだ呼びかけのメッセージを多数配置したり、教材にちなんだ多様な情報を提供したりして、生徒の学習意欲の喚起をうながした。	芸術教育の目標が達成されるためには、生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して指導を展開する必要がある(第6条第2号)。	p.8, p.20 p.30, p.38 p.46, p.60 p.72

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ①表現教材の選定においては、「音楽の生活化」「音楽の生涯学習」「音楽の価値観形成」といった学習の目的に向けて、「音楽Ⅰ」及び「音楽Ⅱ」の全体を支配するような組織的・体系的な学習ユニットを設定した。
- ②鑑賞教材の編修に際しては、楽しい学習展開を意図して、音楽のさまざまなジャンルから生徒の心情に適した楽曲を選定するとともに、それらの理解に有益な関連情報や豊富なカラー資料を掲載した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-173	高等学校	芸術	音楽I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
89 友社	音I 311	改訂版 高校生の音楽 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

芸術科「音楽I」では、「音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める」ことが求められている。この課題に応えるため、本教科書では今日の高校生の心情にフィットした多様な様式の音楽教材を選択し、歌唱教材の編修において「4主題ユニット方式」を採用するとともに、鑑賞教材の取り扱いでは表現活動との関連を図るなど、とりわけ「音楽の楽しい授業展開」の実現に意を注いだ。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	配当 時数
【歌唱】 ●青春と音楽(青春を歌う/季節を歌う) ●芸術と音楽(言葉と音楽/ドラマと音楽) ●民族と音楽(世界の歌/日本の歌) ●人間と音楽(合唱の楽しみ)	人間と音楽の関わりを4観点から捉え直した上で、生きる力の証として合唱活動を位置付けた[2A表現(1)歌唱アイウエ, 3取扱(4)(7)]。	p.8-27 p.30-45 p.46-71 p.72-86	
【器楽】 ●アンサンブルを楽しもう(ヴォイス・アンサンブル/ボディ・パーカッション) ●器楽合奏(リコーダー・アンサンブル/バンド・アンサンブル/和楽器アンサンブル)	合奏の源を声と身体のリズム・アンサンブルに求め、そこから様々な器楽合奏への発展に意を用いた[2A表現(2)器楽アイウエ, 3取扱(4)]。	p.87-91 p.92-105 p.106-108	
【創作】 ●自分の音楽をつくろう(メロディーの作り方を中心に変奏・編曲まで) ●音素材を生かしてつくろう(音で表現)	旋律創作の基礎・基本を自然に学ぶとともに、音素材の反復・変化・対照による即興表現を重視した[2A表現(3)創作アイウエ, 3取扱(5)]。	p.110-113 p.114-115	
【鑑賞】 ●表現形態のいろいろ(西洋音楽/批評) ●日本・郷土の伝統音楽 ●諸外国・アジアの音楽 ●ポピュラー音楽/ミュージカル ●和楽器(箏・三味線・尺八)	諸ジャンルから主体的学習を促すとともに、資料活用による多様な音楽様式の感得・理解に意を用いた[2B鑑賞アイウエ, 3取扱(1)(4)(7)]。	p.121-135 p.136-147 p.148-151 p.152-154	
【諸資料】 ●年表(作曲家/音楽史) ●音楽史(西洋/日本) ●楽典(手引き/コードネーム/用語) ●コラム(声/リズム/楽譜/著作権) ●カラー口絵	音楽の文化的・歴史的背景や仕組みの理解を促す多様な資料を準備した[2B鑑賞ウエ, 3取扱(3)(4)(7)(8), 2A表現(1)歌唱イ, (2)器楽エ, 2B鑑賞ウ]。	p.155 p.160-うら表紙裏 p.156-159 p.116-120 p.28, p.87 p.109	
		計	